

第 6 期 第 5 回 中 原 区 区 民 会 議

日時 平成29年 6 月 5 日（月） 14：30～

場所 中原区役所 5 階 503会議室

午後 2 時30分 開 会

出席者：井上委員（副委員長）、橋本委員（副委員長）、伊藤委員、岩崎委員、内田委員、梅原委員、小野山委員、梶川委員、児玉委員、鈴木功士委員、関口委員、田邊委員、中森委員、萩原委員、森委員、柳沢委員、山崎委員

【委員 17 名】

重富参与、君嶋参与【参与 2 名】

向坂区長、永山副区長、池谷担当部長、峰部長、大塚所長、浅川副所長、南担当部長、山田所長、村田課長、松山課長、小野企画課長、相澤課長補佐、塚本担当係長、中野職員、澤村職員、山口職員

【事務局（中原区役所） 16 名】

岩下【コンサルタント（㈱カイト） 1 名】

傍聴者：なし

1 開会

副区長 定刻になりましたので、ただいまから第 6 期第 5 回中原区区民会議を開催させていただきます。

私は 4 月から副区長に就任いたしました永山と申します。よろしくお願いいたします。前職は、当中原区役所の区民サービス部長として 2 年間勤務しておりまして、区民会議にも参加させていただいておりました。引き続き、よろしくお願いいたします。

本日の会議の議事に入るまでの間、進行を務めさせていただきます。改めましてよろしくお願いいたします。

本日は、過半数の委員に御出席をいただいておりますので、川崎市区民会議条例第 6 条第 2 項の規定によりまして、本会議が成立しておりますことを御報告申し上げます。なお、本日の会議は会議公開条例に基づきまして公開で行われます。また、会議録を作成し公開することになりますので、御了承いただきたいと存じます。

本日、成田委員長、安藤委員におかれましては欠席との御連絡をいただいております。また、市古参与、大庭参与、押本参与、末永参与、原参与、松井参与、松原参与、吉岡参与、川本参与、滝田参与におかれましては所用により欠席、重富参与におかれましては 30 分程度遅れて御出席いただけるとの御連絡をいただいております。

それでは、中原区長の向坂より御挨拶を申し上げます。

区長 皆様、第 5 回中原区区民会議に御出席ありがとうございます。ただいま紹介にありました 4 月より中原区長になりました向坂と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私は、ここに来る前の前職は麻生区で副区長を 2 年やっておりました。そのときも麻生

区の区民会議にかかわらせていただきましたし、その前が、市民文化局の区政推進部長というところで3年間やらせていただきまして、7区の取りまとめという形でしたので、区民会議のほうも区民会議交流会とか、そういった形で全体的なところにかかわらせていただいております。せんだって4月になりますけれども、中原区のほうへ来まして、すぐに委員長さんから1年間の報告書をいただきました。中間報告という形で取りまとめをしていただいたものをいただきまして、今後、今期の区民会議では、「災害に強い、ユニバーサルなまちづくり」を進めるということで、取り組みの提案、実践に向けた具体的な内容、体制について御議論をいただくとお聞きしております。

先ほど、全体的なというところにかかわっていたところでございますけれども、今のほうにおきましては参加と協働ということをテーマにどういった市民自治のあり方がいかにいうところを、去年は検討委員会を立ち上げて検討しているところでございます。その中で今後、区における地域課題の解決の新たな仕組みづくりを検討していくというところでございますけれども、その中では、次期の区民会議の休止も視野に入れた形で、この検討をどうやっていったらいいかという検討を今、行っているところでございます。

こういった状況ではございますけれども、現在の第6期区民会議におきましては、しっかりとやっていきたいと思っておりますので、今後、中原のよりよいまちづくりにつなげていくということで、本日も活発な御議論をしていただいて、我々もしっかりとそれを受けとめて実際の事業につなげていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いしたいと思います。

また、外もだんだん暑い季節になっておりますので、健康には十分注意をされて、どうぞしっかりした御議論をいただければと思いますので、よろしくお願いします。本日、どうぞよろしくお願いいたします。

副区長 続きまして、事務局より本日の資料の確認をさせていただきます。

事務局 お手元に資料を配付させていただいております。

まず1つ目ですが、区民会議の次第です。それと別添1で座席表、別添2で委員及び参与名簿がございます。本日の資料でございますが、A4横の1枚物で資料1、第6期中原区区民会議後半の審議テーマについて、資料の2、後半の部会の進め方ということで、A4の縦書きの資料を御用意しております。それと、参考資料1といたしまして、先日4月17日に行いました運営部会の会議録をホチキスどめしてございます。1枚物で参考資料2、今後の会議スケジュール（案）、参考資料3といたしまして区民会議の中間報告書と概要版を御用意させていただいております。

以上でございます。

副区長 以上、資料について御確認をさせていただきました。資料が不足している場合は事務局にお申し出をいただきたいと思います。と存じます。

それでは、ここからの進行につきましては成田委員長が欠席でございますことから、梶

本副委員長にお任せしたいと存じます。よろしくお願いいたします。

2 会議録確認委員の選任

槇本副委員長 ただいまお話がございましたように、成田委員長が急遽欠席でございますので、ここからの議事につきましては副委員長であります私、槇本が進めさせていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

ちょうどきょうあたりが朝の日の出が一番早くて、もう何秒かずつ朝が遅くなっていくんだそうです。今朝、そんな話をラジオで聞きました。また、梅雨入りもすぐということでございますので、これから体調管理に十分注意されて、それぞれの分野で御活躍をしていただきたいと思います。

それでは、会議に入ります前に、本日の会議録の確認委員の選任をさせていただきたいと思います。前は梶川委員をお願いしておりまして、本来は2名なのですが、前は1名でございました。本日は名簿の順番ということで恐縮でございますが、児玉委員と鈴木功士委員をお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。よろしくお願いいたします。

3 議題

槇本副委員長 それでは、議題の審議を進めさせていただきたいと思います。

まず初めに、第4回運営部会の報告を受けまして、審議テーマであります「災害に強い、ユニバーサルなまちづくり」に向けた取り組みの審議経過について議論をさせていただきたいと思います。

それでは、最初に4月17日に開かれました運営部会の審議内容について、これはちょうど運営部会の報告は副委員長の私が担当ということでございますので、この部分について私から報告をさせていただきたいと思います。

4月17日月曜日に7名の委員出席のもとに第4回運営部会を開催させていただき、第6期中原区区民会議の後期の進め方について審議を行いました。

資料1をごらんになっていただきたいと思います。資料1に沿って報告させていただきます。まず、テーマでございますが、このテーマを継続するのか、それとも新たなテーマとするのか、それぞれ各委員に意見を伺いましたところ、全員がテーマについては継続との意見でしたので、テーマは引き続き「災害に強い、ユニバーサルなまちづくり」とし、中間報告書にもありますように、提案内容の実践をしていくことにしました。また、提案内容のテーマに入っておりますユニバーサルの要素が薄いのではないかと意見もありました。ユニバーサルの意味は多様で、定義がなかなか難しい。また、時間的な制約もございまして、第4回の運営部会ではユニバーサルについての具体的な細かい内容まで突き詰めることはできませんでした。

次に、世代交流につながる内容を取り入れることも議論させていただきました。さまざまな世代や背景を持つ方々に参加していただくことにより、ユニバーサルの視点を取り込めるのではないかという意見もありました。

そのほか、今後の提案の進め方の議論を行ったわけですが、課題調査部会では、文字どおりテーマに関する課題や解決策などを調査、審議してきました。提案内容については既に委員の皆様には御理解をいただいておりますので、今後は各提案に関しまして、実行委員会形式のようなイメージで会議を進めていけたらよいのではないかということで議論を行い、今回の区民会議に諮らせていただくこととなりました。本日は、提案を実践するに当たり実行委員会、プロジェクトチームのような部会を設置することと、その部会委員を決定していただきたいと考えております。

私からの説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。

それでは、ただいま運営部会の報告をさせていただきましたが、委員の皆様の御意見等をお伺いしたいと思います。

それでは、運営部会にかかわられていない方の御意見をお伺いするということで進めていきたいと思いますが、よろしいでしょうか。成田委員長はうまいぐあいに進めたんですが、私はまだふなれなものですから順番に伊藤委員のほうからお願いできますか。

伊藤委員 今までの運営部会でやってきたテーマをそのまま継続していただけるということですし、防災というのは本当に範囲が広いと思いますので、私はそのまま継続していただくことに賛成なんです。そういうことでよろしいでしょうか。

岩崎委員 確かに、ユニバーサルなまちづくりというところについて関心も高いと思いますし、ただ多少イメージが広いのかなと思っていますので、ここでまとめていただいているとおり、少し交流とかにもキーを絞って検討していくということについては、私も賛成の立場で取り組んでいければいいのかなと思っています。

内田委員 運営部会の意見交換の会議録を読ませていただいて、その中で、私も推薦部会があります。その中で、やはり防災ということ、本来における自主防災というのを原点に置いて、それを組み込むことができたらいいなと感じます。中には、ユニバーサルと防災という接点もあるかと思いますが、その辺を考えながら次につなげることができたらと感じたところです。よろしくお願いいたします。

梅原委員 よくまとめていると思います。ただ最近、新聞なんかで、テロの問題が随分多く出ているんです。これからオリンピックが近づくということになると、やっぱりユニバーサルというのは言うんですけれども、要するに海外の人々が出てくるようないろんな問題が発生するのではないかなと思うんです。そういうのも中に入れたらどうかという感じはちょっと持ちました。

児玉委員 なかなかユニバーサルという言葉がまだちょっと浸透していないような感じで、若い方から高齢者の方、それで今結構災害について騒がれていますので、やはり災害

のことに重点を置いて御意見を出していただけたらいいなと思っています。私は、余り詳しいことはわからないものですから、勉強させていただきたいと思います。よろしくお願いします。

鈴木（功）委員 よろしくお願ひします。災害についてですが、まず、今年度か昨年度か高津区民会議でも同じようなテーマを取り扱っていると思いますので、そこでの成功例とか失敗例を学べればなと。そうしたほうがよりいいことができるのではないかなと感じました。

あと、ユニバーサルなまちづくりということですが、日本で一番どこがユニバーサルな町として成功しているのか、そういうイメージがあれば一步近づくのかなと思ったので、そういう情報があればぜひ教えてください。よろしくお願いします。

関口委員 前回も私は、報告しっ放しではという意見を言いましたけれども、そういう意味では継続して実践していくというのは大変いいことだなと思っています。ただ、ユニバーサルという言葉については、1回目に日本語でという意見を出したんですけれども、残念ながら全然取り上げてもらえなかったわけです。実際問題わかったようなわからないような感じということで、今回そういう論議がまたされたのかなと思いますけれども、やはり、日本語でわかりやすく言うことが必要ではないかなというは改めて感じました。

中森委員 私も継続で賛成します。特に、防災というテーマでこれからもっと詳しく、もっと深くこのテーマに沿っていろいろ取り組んでいかないといけないと思っています。

あと、言葉のことで皆さんがユニバーサルと言っているんですけども、これを見ると中原区の全ての皆さんに当てはまると考えればいいのではないかなと思って、ここに現在住んでいる方たちだけではなくて、これからこっちに観光で来る方たちに関しても防災については広く考えていかないといけないと思い、この言葉は私にとってはいい言葉になっていると思っています。これから関東では大きな地震がいつ来るかもわからないと言っているので、いろいろ準備をしていかないといけないのは頭に入れて、いざあったときにみんなが混乱しないようにということで準備、訓練というのがとても大事ではないかなと思っています。

森委員 私のところでは去年、1町会で避難訓練をしました。今度は6月11日に中学校区の中の3町会で避難訓練を行うことになっています。でも、なかなか集まりがよくなくて、それに対して子どもさんとか、年寄りとか、いろいろ連れていっていいものやら何やら、そういう伝達的なものもないんです。1町会でやったときも50名、今度も70名とかで割と少ないんですけども、一応区のほうからお米、それと自主的に豚汁をつくって出します。仮設トイレをやるとか、いろいろそういう決まりはありますけれども、もうちょっと人数的に3町会ですからふえてほしいと思っていますけれども、なかなか集まりが悪くて、それをどうすればいいのかとも思います。実際のときには帰宅困難者とかそういう方もいらっしゃるし、受け付けどうするかみたいな最初の段階のこともいろいろ決めてはい

でも、なかなかそういうふうにはうまくはいかないと思いますので、これから何回か自主的に重ねていったらいいなと思っています。

柳沢委員 防災というところがすごく範囲が広くて、総論的には本当に賛成なんですけれども、もうちょっと各論的に言って検討していかないと、例えば今、会社だとか商店街だとか、学校だとか、幼稚園だとか、そういうところの各論的な取り組みというか、商店街でも商店街全体で取り組んだり、あと、お店がどういう防災をやっているかとか、そういうところまで踏み込んでいかないと、単に防災、防災といっても、いざ起こった場合、個人だとかお店でどういう取り組みをしているのか、我々もちょっと知りたいなと思って、そこまで踏み込んでいけたらいいなと、いつもそういうふうに思っています。やっぱり、防災といっても範囲が広過ぎてしまって、今、森委員が言われたような町会で防災訓練をやったり、うちのほうでも商店街が中心になって、防災訓練をやったりしているんですけれども、その中にもすごく中身の濃いいろんなやり方もあると思うので、その辺のところをいろんなところからちょっと聞いてみたい。あるところがあれば、提案してもらいたいとは思っております。

山崎委員 継続には賛成ですけれども、ユニバーサルな町が災害に強いのかと考えると強いと思うので、このテーマは絶対に生きているのではないかなと思っています。それで、ユニバーサルというのは、中森委員がおっしゃったように誰でもということと理解しているのではないかなと思います。誰でもが例えば災害に対応できるとか、誰もが同じように災害のときに動けるとか対応できて、避難ができてということを考えていくのが大事になってくるのではないかなと思っていますので、それが災害に強い町なのではないのかなと。1人1人が少しでも命を自分で守り、自分できちんと生かしていけるというところを、これから中原の町は人口がふえていきますけれども、1人1人で考えていける町というのは、やっぱりユニバーサルな町と言えるのではないかなと思っております。

それで、具体的な実行委員会というのは、とても有効なのではないかなと思っています。今までは机上で議論していることがとても多くて、それが一体どの程度実行できるのかというのは区民会議の中でもなかなかつかみ切れなくて、皆さんは歯がゆい思いをされていると思うので、実行委員会で何か具体的なことができていけると、随分区民会議としての価値が発揮できるのではないかなと思っています。

橋本副委員長 ありがとうございます。

それでは、運営部会委員以外の御意見を伺ったわけですが、運営部会委員からこれだけはいきたいということがある方はいますか。よろしいでしょうか。

それでは、この辺で次に移らせていただきたいと思います。

続きまして、今の関連ですが、3つ目の議題になりますが、課題調査部会委員の選任につきまして審議させていただきたいと思います。この点につきましては事務局とも調整させていただきまして、これまでの課題調査部会というよりは、資料1にもございます提案

を具体的に進めていくための提案実践のプロジェクトチームといった体制で進めてまいりたい。最後に山崎委員からありましたが、そのような形で進めてまいりたいということを提案させていただきます。この点について、こういう提案でよろしいでしょうか。進め方ですが、提案実践のプロジェクトチーム的な体制で次の会議を進めさせていただくということでもよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

稿本副委員長 それでは、そのような形で皆さんの意見がまとまったということで、事務局ほうから補足がありましたら、御説明をお願いしたいと思います。

事務局 それでは、事務局から補足で説明をさせていただきます。

お手元の資料2をお開きください。第6期中原区区民会議後半の部会の進め方（案）でございます。これまでの審議経過を踏まえまして、テーマの継続として、今後運営していく上で課題調査というよりは、むしろ実践となるため、こちらに書いておりますとおり、部会名称「取組検討・実践」部会として進めていくことを提案させていただきました。なお、運営部会については、今までのメンバーでの継続を考えております。開催の回数につきましては全4回、部会委員は部会長を含めまして8名程度とする。8名程度という根拠なんですけれども、活動について多くもなく少なくもなくという人数で8名ということで考えております。こちらは、主に企画内容を検討する委員として構成を考えております。

各取り組みの実践の当日については、全委員の協力ですとか参加をお願いしたいと考えております。

ちなみに、①、②と書いてありますとおり、以下の2つの取り組みを大プロジェクトと捉えまして、各2回の部会をその主な検討・準備の場といたします。ちょうど時期的によいと思われるものといたしまして、川崎フロンターレサッカードリーム教室、こちらは10月15日日曜日の開催予定として計画しております。また、②といたしまして中原区総合防災訓練がございますので、この2つのプロジェクトといたしまして、これの検討ですとか、準備の場と考えていきたいと思っております。ちなみに、中原区総合防災訓練につきましては秋にもございますが、秋の開催について検討していくということになりますと、ちょっと時期的に間に合わないということもございますので、秋についてはまず見学を主体としてかわっていただきまして、冬に向けての実践という形で進めていただければなと思っております。ちなみに、開催時期は未定となっておりますが、おおむね2月ごろを想定しているとのことでございます。

また、その他のプロジェクトについては、事業の検討・実践状況を踏まえながら、機会を捉えて、「取組検討・実践」部会、運営部会ですとか、区民会議全体会議内での進捗状況の確認、追加意見や提案の検討、区民会議や区内の各団体で可能な支援や実践等を行うものといたします。

部会長については、全4回を通じて同じ委員をお願いしたいと思います。川崎フロンタ

ーレサッカードリーム教室の部会と中原区総合防災訓練ということで、こちらを統括する形で部会長はお願いしたいと思っております。なお、「取組検討・実践」部会の委員につきましては、それぞれの取り組みの企画内容にかかわっていただきまして、先ほども申し上げましたが、当日は全員参加ということでお願いしたいと考えております。

なお、これから選出を考えていただくんですが、委員につきましては、今までの課題調査部会がそのまま引き継ぐのではなくて、これまで部会委員としてかかわっていらっしやらなかった委員さんの選出についても考慮しながら運営していただきたいと考えております。

稿本副委員長 ありがとうございます。

ただいま、事務局のほうから、資料2、第6期中原区区民会議後半の部会の進め方について、具体的な説明をいただきました。この点について、質問、または御意見等ございましたら、挙手でお願いしたいと思います。

萩原委員 運営部会においては、たしか、こういう形ではなくて実行委員会形式にしたいと言ったつもりですので、わざわざ取組検討・実践にした意味がちょっと不明だなということと、当日全員参加にしても、あくまでもプロジェクトを実行するためにしっかり意見を言ったり計画を立てたりという必要があると思うので、また検討してちょっと意見を言うくらいのスタンスに見えるので、ちょっと不思議に思いました。それが2回ぐらいの会議でできるとは思えませんし、この2つのプロジェクトの統合で1人が背負うというのも、私はちょっとやり方が違うんじゃないかなと。フロンターレのほうはフロンターレでしっかりやらなければならないし、総合防災訓練のほうもしっかりやるべきだろうと思うから、それぞれの実行委員会でそれぞれの委員長がいるべきではないかなと思うんですけれども、これが2回ずつの会議でちょっと検討しましたというプラスアルファぐらいのことで、区民会議としてしっかりと実績が残せるとは不思議ですので、意見を言わせていただきます。

稿本副委員長 そのほかの皆さんの、全体の意見を聞いてからということで、ほかにありますか。

小野山委員 全く脱線してしまうかもしれませんが、教えていただきたいんですけれども、ほかの中間報告であった提案というのは、進み方とかはどんな感じで目に見えてくるのかなというのが、勉強不足でわからなかったんです。というのは、中間報告の10ページにHUGゲームの実施推進というのがあるんですけれども、私は、地域教育会議というところの末端にいるんですけれども、そこでも同じように、あっちこっちで防災をテーマになさっているんですけれども、ここは地域の方、学校、子どもたちというのがいて、自助公助というか若い力を育成したり、御高齢の方たちの力をおかりしたり、そういうことでも一緒にできるような場所だったりするので、HUGゲームはとてもいいんじゃないと思ったので、どういうふうに御紹介したらいいのかなというところで、この提案がどんなふ

うに進んで、どういうふうに私たちが活用していけばいいのかな、ほかの提案はどんなふうに目に見えてくるのかなというところの確認でした。

橋本副委員長 いろいろ出ておりますので、それ以外の皆さんからも全部まとめて出していただいてから。

山崎委員 今、運営部会の中でも意見が違うと感じたんですけれども、それはどういうふうに考えたらよろしいんでしょうか。私も実行委員会は賛成だと思ったんですけれども、運営部会内でどういう方向になっていたのか、もう1度御説明いただければなと思います。

事務局 事務局から回答させていただきます。運営部会では実行委員会というお話があって、ちょっと事務局と委員長がすり合わせたときに、実行委員会というものではなくこんな感じでどうだろうなという感じでイメージで出したのが、今回の資料2ですので、実行委員会方式のほうがやりやすいとか、効率的だというのであれば、今回区民会議の場でそのような組織体で実行委員会を設けて進めていくと決めていただければ、そういう方向で進めていくのがこの区民会議のあり方なのかなと思います。今回のこれは事務局の案もありまして、こういう御提案でございますので、これに縛られることなく、実際に自分たちがやっていくぞという形で、やりやすいものが一番いいと考えますので、そこは議論していただきまして案を出していただけたらと思っております。

萩原委員 私の記憶では、フロンターレサッカードリーム教室でのイベントと中原区の総合防災訓練への取り組みというのはすごく大きなイベントなので、それぞれの実行委員会がしっかり要るねという話をしたことと、そのほかの先ほど言われたようないろんな提案があって、これはなるべくやっていきたいということがあって、例えば私は、中原区で総合防災マップをつくるときとか、街中サインをするときにはかかわりたいということをそのときにも言いましたし、多分、委員の皆さんはそれぞれ、今まで出た中の何かには取り組みたいと思っているのがあるので、全くこの2つの実行委員会以外が休止状態になっては困るので、忘れずにそれは継続して残りの1年でしっかりやりたいなと思っていますので、運営部会の中で割れていたという印象はないです。今回、初めてこの「取組検討・実践」部会という名前が出てきたので、私は疑問に思ったので、お話をしました。それで結構です。大丈夫です。

橋本副委員長 この部分について委員長と事務局にお任せで進めた形をとられていますので、ちょっと私も詳細について熟知していなくて申しわけございませんでした。

それでは、「取組検討・実践」部会的な形というのは、多分時期、2つの点を進めるという点、それから回数、そういった制約の中でいくと、このような形がいいだろうということで、こういう形を出されたんだらうと思うんです。ですから、運営部会で言われていたような実行委員会として進めていく場合に、この時期の問題とか回数の中で、そういったものがやっていけるかどうかという2つの選択肢があるのかなと、私は個人的には思う

んです。そういうことで、例えばフロンターレサッカードリーム教室というのは日にちが決まっているということですね。それから、防災訓練については秋の9月ごろのを見学して、冬にやるのに間に合わせるということでございますので、この点について、どういう形で進めていくか御意見がありましたら再度お伺いしたいと思うんですが。

井上副委員長 今の話し合いの中で、皆さんの進め方の考え方が区民会議の根本から離れてしまっているなと考えたので、一応、補足させていただきます。きょうここに出されているものは、単純にこういうふうにやったらどうでしょうという提案です。今皆さんに求められているのは、これを見てどういうふうに思いますか、どういうふうにやったほうがいいですか、賛成なんですかということになります。なので、例えば萩原委員が言ったとおり、前は委員会という形がよかったんじゃないかと提案したんですけどもというのは、確かに真っ当な意見なんですけれども、逆に言うこの会議より委員会のほうがいいと思われる理由というのが多分必要になってくると思うんです。そこが、萩原委員が言ったとおり、これをちゃんと詰めていくのに回数が足りないよね。ただ、これは名前だけの差ですよという形だけで、ちゃんとそういう会をしっかりと内容を濃くしてやっていこうというのが本質だよということを、皆さんでしっかりと詰めていかないといけないということになっていくと思います。

あくまでも、この区民会議というのは主役は委員の皆さんであって、区役所の方たちに関してはそれをサポートしてくれる方たちということなので、これはあくまでも提案ですと、あとは皆さんでどういうふうに進めていきますかというところで、考えをシフトしていかないと、言っていたことと違うということではなくて、この場で決めましょうという考えを持って、皆さんから御意見を出していただけるとすごく助かると思います。よろしくお願いします。

槁本副委員長 今、補足というか説明をしていただきました。いかがでしょうか。

内田委員 ありがとうございます。言葉でいうと2つの実践部会ということになっているようですが、見えてくるのは10月15日のドリーム教室で、その場所で何をやりましょうというのは、前回の課題研究会で出てきたかなという気はいたします。そして、防災訓練に参加しようというのは近々に出てきた課題で、それに対して、何が区民会議として参加できるのかということ、先ほどの2回ぐらいの会合ではどうなんだろうな、何をするんですかということで、見学という形であれば何を見学するのかということで、2回でも十分だと思うんです。でも、それに対して提案実践となると、回数ではないんでしょうけれども、同時進行していかないと2月のときまでにはおさまらないんじゃないかなと。

今これは2つですけども、もう1つあるような気がしてならないのは、総合防災マップ。皆さんが見えるようなもの、課題部会のほうでも具体的な地図を見ながら、こんなふうに制作していきましようというところまで行ったはずなんですけど、このままで行くとそれがどこかで消滅している気がしてならないんです。ですから、今、運営部会のメンバー

は同じでとっておいて、検討・実践で2つで8名ぐらいでということ、20名のメンバーの中で運営部会が8人ぐらいになり、後のところを4名4名、算数をしているようになってしまいますが、そうではなくて、やっぱり全員が3つに対して取り組む。とりあえず10月に行われるものに関しては、過半数のメンバーがこれに入り、それが終わることによって防災訓練のほうに参加できるようになり、そして防災マップの点ということで継続して同時進行していかないと、やっぱり中心人物になる人が各部署にいないと、取りまとめがかなり難しくなるのではないかなという気がしています。その辺をまとめることができたらしら思っているところです。よろしくお願いいたします。

槁本副委員長 ありがとうございました。ほかに何かありますか。

梶川委員 ちょっとわからないんですけれども、今、川崎市で市長さんが各区で2回ぐらい防災訓練をやるという話をいろんなところで聞くんです。それとこれは全然関係ないんですか。ほかの区でも冬と秋にやるという話を聞いているんです。それが一緒なら、話が変わってくるのではないかなと思うんですけれども、ちょっとそれがわからないんですけれども。

槁本副委員長 そのことについて、事務局のほうから。

事務局 事務局ですけれども、この防災訓練は、いわゆる区で行う市長が言っている2回の防災訓練と同一でございます。

梶川委員 それには、区民会議としては、会合か何かにはどなたかが参加するんですか。

槁本副委員長 その辺については、またこの中で検討ということになると思います。

井上副委員長 今すごく偏ってしまっているの、しっかり整理させていただきますと、まず、僕が運営部会で窓口になりますよと言ったのは、中原親子サッカードリーム教室というものなんですけれども、まずこれを何でやろうかという話になったときに、今までの意見の中で、防災に対する関心度がある人というのは二極化されていますと。全く関心がない人か、すごく関心のある方ですと。そうであれば、その2方向に対してやる事業をまずやっていきましょうということで、皆さんにこういうことをやったらいいのではないかというのをを出していただいているのが始まりです。その中の、さっき言った二極化のうちの無関心層と言われる方たちに向けては、ちょうどフロンターレと中原区役所でやっている、単純にサッカー教室に楽しみに来る人たちというのが大体2000名ぐらい集まりますというのであれば、そういう年代というのは子育て、仕事でかなり忙しいという傾向がありますので、なかなか防災というところまで触れる機会がないのではないかなという推測のもと、ここのところで1つ防災に触れ合えるような企画を幾つか出していきましょう、体験できるようなことをやっていきましょうというのが1つ。

もう1つ、この総合訓練に関しては、先ほどの繰り返しになりますけれども、二極化のうちの関心が高い人というのは、ここには参加しますよね。であれば、避難所開設というところをしっかりとっていけばいいのではないかなというところで、この2つに関してがす

ごく具体化されて進んでいるという状況です。

なので今、状況としては、ほかの検討内容プロジェクト、例えば防災マップ、情報発信、街中サイン更新というところに関しては、具体的なものがまだ出ていないという状況です。防災マップについては、前回の運営部会の議事録の最後に出ているんですけれども、まだスケジュール的に余裕がありますので、これはまだ話ができる状況でありますよとなっています。ここの進め方に関しては、今、内田委員ですとか、萩原委員から関心が高いと言っているから、こちらのほうからどういうふうアプローチしていこうかというのを御提案していただいて進めていくという形を事務局としていただければ、ちゃんと具体的な動きになっていくのではないかなと思います。皆さん、これまでの流れというのは、会う機会もすごく少なく、忘れてしまったりというのはあるんですけれども、一応順序立てて進んでいますよというところは御認識していただければありがたいです。お願いします。

田邊委員 運営部会と課題部会の両方に出ていますので、流れは大分把握していると思うんです。前期と後期で内容を変えてもいいよというのが、前回の区民会議のお話でした。そこで、運営部会でもどうしようかと。でも、「災害に強い、ユニバーサルなまちづくり」というのは、非常に大きな問題なので、このまま後半もやっていこうと決定されたと思います。それできょうに至っているわけですが、前半で、いろいろ提案させていただいた中にフロンターレドリーム教室と中原総合防災訓練というのはあるんですが、当然それだけを後半もやっていくのかどうかというのは、本来は今後の話し合いの場で必要なことだったはずなんです。そのままを引き継ぐのではなくて、ただ、テーマは同じだよと。同じだけれども、これを全部掘り下げていくのか、それではなくて、この中でもフロンターレと総合防災教室についてはやるけれども、それ以外のことはどうしていくんだらうかというのは、ここで今後検討していかなければいけないはずだと思っているんです。そういう中で、こういう検討部会を出されてしまうと、これだけをやって後半も終わっていくのかと非常に疑念を覚えるところではあります。

ということで、私なんかも本当に小野山委員が言ったように、避難所ゲームのHUG、本当にわからない。でも、小さい小学生からみんながやってみたら防災だけではなくて、災害に強いという言葉、それが今、私はこの区民会議で大事だと思っています。防災、防災というと、災害を防ぐにはどうしたらいいかということだけを考えればいいんですが、そうではなくて、災害に強い、みんなで考えようよまちづくりをとというのが前半と後半のテーマですので、その辺をもうちょっと掘り下げて、これだけではなくて、時間がない、時間がないと言うけれども、それでもそれに向けてみんなでしっかりと考えてから取り組んでいきたいと思います。

稿本副委員長 ありがとうございます。

山崎委員 この御提案の中では、企画と内容の検討を取組検討・実践部会でやりたいとい

うご提案になっているので、これに関しては2回できっちりと検討と企画をやっていただいて、別に実行委員会をつくるという方向ではいかがかなと、ちょっと思っています。絶対に2回だけでは、実践までは行きませんよね。

井上副委員長 やろうと思えばできますよ。ただ、山崎委員が言うとおりの、何をもって2回とするのかというだけだと思うんです。方向性としては、もう箱があります。例えば、サッカードリーム教室に関しては、箱は決まっています。時間は決まっています。その上で来る人たちの人数も大体決まっています。そこに関しては防災の関心がない人なので、その初段階で行える企画をやっていきましょうというだけです。なので、あとは簡単に言ったら、例えば外でやろうか、それともスタンドの雨宿りがあるところでやろうかというのも含めてというところで、僕の一意見としては総括する身としては、大体5つぐらいのブースを出してもらえればいいかなと。そのアイデアを皆さんから出してもらいたいというところと、当日の運営、子どもたちが小学校1年生から6年生、それとその保護者がついてくるので、その方たちが基本楽しみにして来るものなので、楽しみながら防災に触れるようなブースをつくっていければ、1つの成功例としてなるんじゃないかなというところまで頭にあります。

この会を2回と言われてしまう背景には、多分、皆さんお忙しいという一番の前提があった上で、これぐらいでおさめていかないと物すごく負担がかかるんじゃないかという上で意見を持っていたいただいているんですけれども、逆に、2回では済まなくて、みんなでやるよとなるのであれば、会の回数は部会の中で間に合わないよねといって決めていくという柔軟性を持ってやればいいのかとは思っています。別にここで回数を決めようということではなくて、実際に萩原委員が言っていたいたとおり、委員会という専門の部署をつくって進めていくというのは、正直私にとってもすごくありがたいですし、細かく見ることも実際はできないので、回数を決めずに部会をつくって、その都度、スケジュール的なことを確認しながらやっていくとなればいいのかと思っています。話の途中で済みません。

山崎委員 2回でできるとか、そういう見通しがあるならいいと思うんです。区民会議としてきちんと実践まで持っていきたいという意思があるのであれば、やっぱり可能性を極力高めておいたほうがいいと私は思っているんで、2回でできるのであれば2回で十分。メンバーもこの御提案でよいというなら、それでいいと思うんです。ただ、私としては実践まで持っていけるという見通しが余り見えていなかったんで、まずは御質問したというところです。実践まで持っていって、それで区民会議としてやったという実績になるのであれば、この御提案でいいのではないかなと私は思っています。

槁本副委員長 ほかに御意見ございますか。

岩崎委員 私も回数というよりは、今副委員長がおっしゃられたみたいに、決める内容を事前にある程度絞っておけば、確かにここにおられる方全員なのかその半分ぐらいの委員

なのかわからないですけども、いずれにしても、今からまた日程を調整して計画していくというのは現実的に難しい部分もあると思いますので、このぐらいの回数でもいいのかなと思っております。私としては、御提案をいただいている内容でも、進め方としてはそんなに問題はないのかなと思いました。部会長お1人と書いてあるこの方がどこまで何の役割をやるのかということだと思えるんですけども、このお1人の方の役割によって、前半の①と②で2人に分けたほうがいいのか、それとも1人のままでいいのかというのは、何をするのかで考えればいいのかと思いました。

橋本副委員長 これは、前半というか7月から9月、もう片方のテーマはそれが終わった後の10月からということで、お1人の方に継続してまとめて進めてもらえるという前提で、このような形になっているわけです。ですから、時期がダブらないという前提で、前半と後半を1人の方に継続していただくという形になると思うんですが。

岩崎委員 2人に分けても問題がないのであれば、別に問題はないと思っています。

コンサル 部会運営をお手伝いさせていただいているので、ちょっと発言させていただきます。確かに運営部会で実行委員会形式という御意見をたくさんいただきましたが、実行委員会はどのような形で、今までの部会とどう違うのかというところまで十分話ができていなかったと思います。お1つ確認したいのは、例えば実行委員会形式といったときに、区民会議委員以外の方々や団体とも一緒に検討していくような場を想定されるのかどうかということです。もしそうであれば、1つ言えることは、今実際のある場として決まっているフロンターレのサッカードリーム教室についても、中原区の総合防災訓練についても、主催については区民会議とはならないと思うんです。

そういった中では、フロンターレサッカードリーム教室の実行委員会を区民会議でやるという形になるとまた違ってしまおうと思います。先ほど井上副委員長もおっしゃいましたが、例えば川崎フロンターレサッカードリーム教室という場があって、その中の設定で、今まで区民会議で検討して、実践の種、アイデアはたくさん出ています。その中で、例えばドリーム教室の中での1つの企画として、5つのブースになるかどうかはわかりませんが、どれを取り上げて、どういうふうに運営していくか、この案のイメージは、それを区民会議の委員の中で集中的にするメンバーを決めてはどうかということでこういった案になっているのかなと思います。

実行委員会と言ったときのイメージと、今までの部会とどういうふうに変えたいのかというところをもう少しはっきりしないと、何となくそれぞれ皆さんイメージが統一されていないのかなというところが1点。

あとは、具体的にきょうメンバーを決めたいということもあるので、ポイントとしては、大きく2プロジェクトありますけれども、部会長を、通しではなくて分けてそれぞれ決めたほうがいいのかという御意見が出ました。それから、回数をふやしたほうがいいのかという御意見が出ました。

あと、この2つ以外のプロジェクトについてはどうしますかという御意見がありましたけれども、忘れていたわけではなくて、一応資料2の表にも入れたつもりでつくっております。こちらにも総合防災訓練とかマップということもきちんと入っています。ただ、こちらについては今までも出ましたが、検討のタイミングとか、こういったタイミングで何ができるかというのがまだ見えていない部分もあるということと、とにかくこの2つが大きく実践の場として既にあるということで、こちらである程度しっかりやるということを考えながら、防災マップとかサインのほうも、機を捉えて検討はきちんとしていくよというのは、事務局もしっかり認識しているところだと思います。

以上です。

稿本副委員長 萩原委員、どうですか。

萩原委員 回数は必要に応じて全然構わない、2回でできちゃうなら2回でできちゃう。ただ、区民会議のスタンスが、いつも何となく意見を言って、何となく参加したつもりで、それで区民会議で何かをやったというのではないかなと思うので、本当にドリーム教室での区民会議提案ブースの実行委員会とか、総合防災訓練での区民会議提案のブースの実行委員会をそれぞれ委員長を決めてやる。だって、ドリーム教室でできることと、総合防災訓練でできることはやっぱり違うと思うんですよね。だから、同じ委員長が両方持つというのは、私はちょっと大変過ぎると思うので、もちろんこちらの経験を生かしながら次の企画を練っていくとは思いますが、同じ1人が全部というよりは、それぞれ実行委員会ぐらいの気持ちでないと、また検討すればいいのねというスタンスはもう脱却しないと、この区民会議は。実行して何ぼだと思いますよ、私は。

だから、ぜひ絡んでいってほしいし、防災マップも、区役所でやり方が全部決まった後に、これに何か御意見はありますかぐらいのスタンスではなくて、区民会議として、これぐらいのものは入れたものをつくってくださいと、私は最初から言いたいですよ。そういう意味では、3つ目の柱として、こっちは人数は少なくてもいいかもしれないけれども、きちっと入れていただいて、最初からそのメンバーに私は入りたいと思っています。そういうつもりです。別に回数がどうのこうのではないです。

内田委員 中原区総合防災訓練秋と冬ということなんですけれども、私の知っている範囲ですと、秋と冬が玉川地区で行われる防災訓練ということで、行いますということで私は聞いておりますが、具体的に何をやるかというところまでは、今企画の状態だと思っています。そこに区民会議として参加するということであれば、やはりこのあたりの情報収集も必要ではないか。この区民会議の年数はわかりませんが、次年度は春夏秋冬の中で行いましょうということで、何か順番があって、平成30年は住吉地区と聞いておる中で何をしていくのかなと、これもやはり情報収集が必要なので、これに対しての委員長というか、まとめ役の人は必要だと。

そして、今この防災訓練、サッカードリーム教室も、区民会議が主体ではなくて場があ

ってそこに参加する。そうすると、では、区民会議が主体になってできるのが総合マップにつながるかなと考えると、これにも委員というか、まとめ役のこの中の委員長が必要で、区民会議はこれをつくったよという実績もかなり必要なのではないかな。逆に言うと、区民会議が主体であればこちらのほうがメインになるような気がしてなりませんがいかがでしょうか、どうぞ。

槁本副委員長 いろいろな意見をいただいたわけですが、その中で、まず回数の問題、区民会議の主体性の問題、まとめる回数とかそのような意見が出ていますが、この点についてほかに御意見がなければ方向性をまとめたいと思いますが、よろしいでしょうか。

鈴木（功）委員 先ほどから3本目の柱で防災マップが出ていると思うんですが、これをつくるのであれば、この2つのときに配布できるのがベストだと思うので、そうするとこれをより一層急がないといけないのかなと感じたんですが、このあたりの3つをどういうふうに順番をつけるかといいますか、関連させていくのであれば本当にマップが一番最初にできたほうがいいのではないかなと思ったので、まず御意見させていただきます。

槁本副委員長 マップづくりについては、事務局の……。

伊藤委員 課題部会のほうでマップづくりの話はちょっと出たんじゃないでしょうか。避難所がどこかわからないという住民が多いので、避難所がわかるような色を入れていただきたいと私は提案した記憶があるんですけども。ですから、ある程度、あと入れてほしいものとかをきちんとすれば、すぐできることではないかなと思うんですが。

槁本副委員長 マップづくりの話が出てきたのは、行政側でマップづくりを考えているというような話の中から、どういうものかという話で進んだように理解しているんですが、どうなんですか。

内田委員 3月の時点で印刷物を皆さんにお渡ししたかなと思うんです。この中での体験型防災訓練、1つは、フロンターレの親子、中原区の警察、消防、区役所ツアー、総合防災訓練、学校での防災教室、車椅子や非常食、外国人とのコミュニケーション掲示サインがありました。避難所運営ゲームで、先ほど話が出ています体験的なゲーム、HUGと言われるもの。それから、中原総合防災マップづくりということで冊子をつくりましょうということで、こんな冊子がありますねという地図を表示しながらそれに対していろいろ取り組みを書き入れたいねという話もしました。それから、情報の発信をしていきたいですね、それは区民課の窓口の待合スペースもありますし、小杉ビジョンもありますね。オズ通りのデジタルサイネージの活用もありますね、商店街での活用もありますねというような話もしておりました。

そうすると、課題調査部会で具体化される一歩手前まで来ているような、今このままでこれをしていこうというのとはどこにもないんです。そうすると、今まで検討していたのがどこに行ってしまうのであろうかということは、残念であり、ぜひそれは実現につ

なげたいと思っております。

そして、先ほど言われていましたどこが順番でと言われると、近々に日にちが決まっているところが先じゃないでしょうか。あとは、情報収集しながら具体化していくところがひも解く1つの手順かなと。一遍にできるということはあり得ない気がいたしますので、とりあえず先ほども発言させていただきましたが、やはりこれは3つにされて、おのおの責任者というか、座長を決めていただいて、その中で、この20名の委員が御自分が入れるところはそこに入っていて、そのほうが進めやすいし、その部の会の中で、1回であろうと、2回であろうと、それが4回であろうと、皆さんの中で意見で決めていったほうがスムーズにいくような気がしてなりません、いかがでしょうか。

稿本副委員長 ただいま内田委員のほうから、先ほど皆さんからいろいろ出た意見を集約したようなお話がありましたが、ただいまの意見に対して皆さんどうでしょうか。

萩原委員 委員はかぶってもいいと思います。いろんな委員をやっても。

稿本副委員長 行政のほうで何かありますか。

事務局 今お聞きしてしまして、どこまでが区民会議が実施主体になり得るのかなと思っただんです。こちらでも中間報告を受けまして、例えば避難所運営ゲーム（HUG）であれば、こちらでも自主防災組織のほうに貸し出しできるようにして、町内会とかどこでもできるような体制をつくったり、総合防災マップということであると、無事ですカードという御意見もいただいています。そういったものを反映しようかなと思っているところです。

ただ、実際のところ、例えば総合防災マップで言いますと、こちらもコストを抑えてやっていくということで、例えば広告を入れながら既存のものを——そもそもこの総合防災マップは情報を一元化するということがあるので、基本的には既存のさまざまな防災マップを1つにまとめたものということで、そんなに加工するとかいったところは余りないのかなと思っております。

先ほどもお話をしましたどこが実施主体であるかというところで、どこまで運用として区民会議のほうでなり得るかということは、私のほうでは非常に疑問だなと思っております。

総合防災訓練について、もうちょっとこちらのほうで詳しくお話をしますと、今年度2カ所でやりますと言っているのが、既存の避難所運営会議、いわゆる避難所で地域の方々が実際に毎年訓練をしています。その訓練は実際やっていただくんですけども、そこは皆さんにも見てもらいましょう、モデルとしてやっていこうと。そのほかに防災訓練ということで、ほかにも参加している地域の方とかに見てもらおう上で持ち帰れるようなものがあるんじゃないかということで、例えば各町内会で購入している機器を紹介して実践して、うちもこういったものが使えるといいな、買ったほうがいいなというものですとか、簡単なものであれば、例えばロープワークですとか、防災の区域、簡易防災区域、要は自

分たちで取り入れて、自分たちでもできる訓練とかのデモをして、それを自分たちで持ち帰ってもらう。

大きく言えば、ベースとなる避難所の訓練のほかに、追加するものとしては、他機関の協力がなければできないものと、自分たちで取り入れてできるものがあるかと思うんです。いずれにしても、ここの主体が区民会議がなりかわれるものではないことを考えると、こういったものであれば自分たちで取り入れて、各避難所でやっていただけるのではないかといった、例えばブースなりをつくって出していくのは全然問題がないかと思うんですけれども、ある程度具体を伴ったものでなければいけないのかなと。総合防災訓練全体の中で、全体の中身がどうのこうのというところよりは、もうちょっと絞った形でしか参加は難しいのかなと思っています。

あわせて、総合防災マップについても、こちらでも当然御意見はいただくところでありますけれども、正直言いますと、ページ数とかも既存のものでは非常に苦しい、どちらかと言えば削減しなければいけない中で御意見はいただくところですが、こういったものをつくっていく、いわゆる実施にかかわる部分の中では、個人的にはちょっと違うのなかと思っています。

橋本副委員長 今、事務局から訓練の部分、それからマップについて等、こういう状況だという説明がありましたが、この点について何か質問はございますか。

萩原委員 いや、もうそういう話を聞きますとがっかりしてしまいますけれども、だったら区民会議でこんなことやらなければいいじゃないですか。御意見聞きましたみたいなパブコメで終わればいいと思いますよ。

区民会議で今一生懸命やろうとしているのは、私たちが諸団体長とかそういう立場で出てきていて、何ができるかということです。マップについて、予算があって、予算とのすり合わせでこういうことができるできないというのはもちろんあると思います。一番の大きな、私はマップについては予算をととても心配しています。だけれども、中原区では次の予算があると聞いていたので、何かつくる手立てがあるんだったら、そこに少なくともこういうものは入れてください。それは安否の確認のあれが入ればいいとだけではないんです。

だから、それは実行委員会をつくったからといって、そこが全てできるだなんて誰も思っていないんです。ただ、一緒につくっていききたいという、そういうのがとても大事なことで、だから、総合防災訓練についても、そこを仕切ろうなんて誰一人この中の人は思っていないと思うんです。今まで行政はこれでいいかと思っていたそういう訓練に対して、もっとユニバーサルな視点で、子どもであっても、車椅子であっても、外国の方であっても、目の見えない方であっても、そういう方が災害が起こったときに何とか一緒に助かろうというのにはもう少し何かできないかという視点で取り組もうとしているわけですよ。だから、それぞれの実行委員会があって、それぞれの実行委員長がいて、あくまでも

行政のほうで今までやっていたパターンもあると思いますので、フロンターレさんはフロンターレさんのやり方があると思いますので、その中でできることを探っていきたいし、それは検討とか意見を言うだけじゃなくて、実行まで持っていきたいから実行委員会にして、実行委員長をつくらうというので3本の柱にして実行委員長をつくって、実行委員については出たいところを全部皆さんがかけ持ちでも全然構わないと思うので、そこでまたほかの団体が加わっても構わないと思うので、そんな形でやっていけばいいのかなと思っておりますけれども。

井上副委員長 御意見ありがとうございます。1つ確認しないといけないことが、先ほど言っていた中原総合防災マップというもののなんですけれども、つくる方向というのは決まっているんですか。

事務局 もともと中原区の総合防災マップ、何がこれをつくる理由だったかというところをざっくばらんに言いますと、昨年度、市政だよりの6月号か7月号かちょっと忘れてしまったんですけれども、役所の中でいろんな防災マップがありますと。地域の避難所を書いたマップもあれば、洪水のハザードマップ、土砂災害のハザードマップ、地震の揺れマップとかいろんなのがあって、本当に役所は縦割りで、それぞれがばらばらといろんな地図が出ていて、それぞれ入手がなかなか難しかったりして、それをこんなにいろんなマップがあるんですよと言って、うちのほうでそれを取りまとめてセットにして渡していたのが非常に好評だったんです。それであれば、1つの冊子に合わせてしまったほうが、1枚のマップを持っていたても捨てられるようなこともないし、せっかくやるのであれば、そもそもの啓発の冊子もありますので、そういったものも一緒にして渡したほうがいいだろうというところがあったんです。

ただ、コストがかかる、非常に厳しいと。はっきり言えば1000万円以上かかっちゃいます、どうするんだというところがあって、そこを民間の広告をとりながらやっていく。その中で、先ほどこちらのほうでもコストの話を行ったのは、非常に低廉というか、ただ同然とはいかないんですけれども、その中で既存のものを取りまとめて広告を入れながらやっていきますよと。

そうなってくると、広告を……。

井上副委員長 松山課長、ちょっといいですか。まず、つくるかつくらないかというところと、もしつくるというのがもう決まっているから、こういう話が出ているというのは今の話でわかりましたので、あと、スケジュールがもしあるんだったらというところだと思うんです。

副区長 まず、マップは、方向性としてはつくる方向で今取り組んでおります。ただ、今、松山が説明している具体的な内容について、さまざまな問題とかもございます。あと、いいものがつくられている場合には、中原1カ所でもいいのという問題も出てくると思うんです。その件について、今調整を図っているところでございます。あと、調査報告

書の12ページにも、中間報告ということで、例えばこういうものを載せたらいいんじゃないかという提言はいただいておりますので、これらの管理をしながら方向性としては取り組んでおります。

それから、防災訓練のほうも、先ほど内田委員からもお話がありましたけれども、区で年2回ということで、これは何かと申しますと、実践的な、要するに災害があったときに役に立つような訓練を各区で進めなさいというような市長のお話もありまして、実際には夏、ここからは想定の話になりますけれども、区民会議で調査審議という本来の目的を超えて皆さんにやっていただくのは非常に事務局としてもありがたいと思っておりますし、何よりも今までの訓練というのは、マニュアルどおりにやってみるとさまざまな課題が出てくるんですね。そういう視点から、まず、大まかな流れになりますけれども、秋の訓練では見ていただいて、それに伴って冬にはどういう取り組みをしたらいいんじゃないかというのを調査審議していただいて、実際に自分たちでやってみようということを実践していただければ、私としてはいいのかなと今考えているところでございます。

井上副委員長 どうもありがとうございます。今のお話をまとめますと、鈴木（功）委員から御意見をいただいたとおり、確かにこれから区民会議の中でやっていきたいと思いますところで配布することがベストだとは思いますが、まだ実は防災マップづくり自体が、簡単に言ったら検討段階、つくりたいんだけど方向性を探っているというところなので、今言ったような御意見はちょっと難しいかなと思います。

なので、これに関しては、前回運営会議でも出ていたんですけども、方向性が見えてきたらその都度、区民会議のほうに上げて、皆さんに相談させていただくというような形になっていくと思いますので、何も忘れた感じになっているというわけではなくて、ちゃんとこういうところに課題として出ていますので、萩原委員もそうですし、内田委員も、これは行政と足並みをそろえてやっていく形になります、そういう状況ということだけ、まず御認識いただければと思います。

ただ、ここで出た御意見というのは吸い上げていただく方向性にはなっていますので、物すごく皆さんの興味は高いということは、やっぱりそれだけの必要性があるものとなっていますので、しっかり御意見として賜っていただけるとと思いますので、よろしくお願いします。

内田委員 それは井上副委員長、間違いです。それは認識でいただきましょうということとは、今までやってきた課題調査部会の中で検討してきたことをゼロにする発言ですので、このように中間報告の中でも3本柱のように印刷されたものがあります。それを今回の資料2を見るとどこにもあらわれていない、プロジェクトの内容、検討内容ということが、じゃ、何だったんですかという気持ちにならざるを得ません。よろしくお願いしますじゃなくて、私どもはやっていくんですよという会話で進めているはずです。

そして、2番目の総合防災訓練というのがなぜ2本柱でここに出てきたのか。だんだん

読めてきたところは、逆じゃないですか。総合防災マップがここに来て、防災訓練はこっちのプロジェクトのほうに入るべきじゃないですか。検討願います。

井上副委員長 今の御意見に関してなんですけれども、そういう形で進めていきたいということであれば、しっかりまとめていかないといけないという状況ですね。要は、先ほど言ったとおり、より具体性があるものからどんどん進んでいっているという背景があってこの会が進んでいっているので、私の言い方がどうだったかという部分はあるんですけれども、総合マップづくりのところは何も決まっていなくて、ただつくりたいという意見があるのであれば、じゃ、それをどういうふうにやっていこうかというところからスタートさせないといけないということですよね。

内田委員 副委員長、それは違う。副委員長、あなたも課題調査部会に出ていたときのまとめ役じゃないですか。この地図を1つずつ見せられて、その中でそれを進めていきましょうという話を一緒にしたはずですよ。それを今、まとまっていなくて、それをつくっていく方向でどうなんですかというのは間違い。ここでは、もうどのように進めていきましょうかというところまで来ているのが中間報告じゃないんでしょうか。個人的に2人で話しても、皆さんには違って来るかもしれませんので危惧は感じますが、もう少し具体化したものを委員会でつくっていきましょうよ、要するに区民会議として残るものをしていきましょうよと、先ほどから言っている声があるのを、検討事項というのは違いますと言いたいところです。御検討願います。

山崎委員 本来のあり方と先ほど副委員長がおっしゃったように、区民会議というのは調査と審議であって、実践は入っていないと私は思って今まできていたので、ここで実践まで行けるんだったらいいなというふうに期待して今まで発言してきたんですね。だから、調査審議の段階であるならば、これが必要だよ、あれが必要だよという提案は十分してきていると思います。マップも必要だよ、サインも見直してちょうだい、それで萩原委員はおっしゃったわけですよ。パブリックコメントで済ませればいいじゃん、そんなのわざわざこの会議をつくらなくても。そういうふうになってしまったらもうこの会議の意義がなくなってしまうって、内田委員のおっしゃるよう実践まで行きたいというのは、この会議の本来の目的ではないというところは、1回皆さん、押さえたほうがいいのかなと。行政の御意見を聞いていると、そこがずれてきてしまうと、御一緒にはできなくなってしまうので、そこは井上副委員長がおっしゃったように、押さえていくべきじゃないかと私は思います。

橋本副委員長 まとめがうまくいなくて、皆さんからいろんな意見が出て、その方向性が固まらないということで消化不良になっていると思うんですが、きょう、なかなかこれでいいという形にはならないと思うんですが、私としては、提案させていただいております取組検討・実践部会の2つの部会、これの決定と、その委員の選任までできればと思います。

事務局 事務局のほうで、部会の進め方ということで案を出して混乱させてしまいまして大変申しわけなかったと思いますけれども、今回この2つを出したというのは、実際に区民会議の皆さんが、名前は部会という形になっていますけれども、実行委員会、実行委員として、先ほど井上副委員長もおっしゃったとおり、箱ができている状態で、そこに実際に加わって自分たちで企画して何をしたいのかというのを議論できるものがこの2つということで、この2つを取り組んでいったらどうかという形で提案させていただいているところでございます。

ほかの提案につきましては、実際にもう取り組んでいる部分もありますが、これをまた1から区民会議でやるというのは難しいところがありまして、今回この2つを実際に皆さんが企画から当日運営をしていく中で、いろんな御意見もあると思いますので、そのあたりを今回ほかの提案についても吸い上げて、反映させていくような形で、今後進めさせていただければいいかなと事務局としては思っているところでございます。

この1つ1つをどうするかという話になってくると、実際に取り組みのそれぞれの機期的な問題ですとか、あるいは実施主体の問題ですとか、そういった部分も絡んできてしまいますので、実際に皆さんの取り組みが成果としてあらわれやすいこの2つを今回提案させていただいたという形で、これを進めていく中で、ほかの提案についての御意見とか、そういった部分を吸い上げていくような形で今後のこれからの区民会議を運営していったほうがよろしいのではないのでしょうかという提案ベースでの発言とさせていただきます。

重富参与 すみません。最後じゃないんですけれども、今聞いて思ったのが、実践の意味なんですけれども、私の感覚では、ブースを出すとか、区の総合防災訓練で1つのコンテンツを区民会議として出すということだけが実践ではないと思います。というのは、先ほど防災マップについてお話が出たときに、防災マップをつくる主体はもちろん区なわけです。それは防災訓練も同じなわけです。ただ、防災マップに関して、恐らく今までと違うことをしたいと思っている方の思いというのは、意見を投げて後は任せたねでは、今までと何も変わらないじゃないかと。だから、その企画の段階にちょっと混ぜてほしいというのが、いわゆる防災マップで言うところの実践だと思うんです。それは可能なんじゃないかと個人的には思います。

せっかく実行委員会的なものを組織するのであれば、やっぱり主体的に自分がやりたいものをやったほうがいいと思いますので、最後は皆さんで当然お話し合いをしていただきたいんですけれども、2つでいいかどうかというのも、皆さんが主体として決めるべきだと思います。もちろん、それは実行委員会を組まれても困るよというものがもしかしたらこのプロジェクトの中にあるかもしれないんですけれども、意思表示として、区民会議として、実行委員会はこれを立ち上げたいんだというのがあるのであれば、この2つ以外でもあっていいのかなと感じました。

以上です。

橋本副委員長 いろんな意見があり、先ほど申し上げましたように、それぞれ全部納得がいかない部分もあるかと思うんですが、取組検討・実践部会としまして、2つの検討部会を立ち上げるということにつきましていかがでしょうか。それ以外にいろんな意見等が出ている部分につきましては、それぞれの検討・実践部会の中でも発言等があったら、吸い上げられるものは吸い上げていただくという方向でいかがでしょうか。

萩原委員 名前は実行委員会ではなくて、取組検討・実践部会とすることを、今、副委員長はおっしゃられましたか。

それとちょっと確認したいんですけれども、区民会議というのが調査と審議だけしかやらないのであれば、前回やったきれいなまちづくりは結構実行したつもりだったんですけれども、実行しないところで、調査審議というのは課題調査部会のことじゃないんですか。区民会議が実行しないなんて考えられないんですけれども。どこに書いてあるんですか。ごめんなさい、私が知らないだけかもしれないので。

橋本副委員長 基本的な考えということだろうと思うんですけれども。

山崎委員 資料編の23ページのところに、大まかにはそう書いてあります。

区長 私のほうから御説明させていただきます。区民会議のほうは、条例で調査審議を任されているところでありますが、実行してはいけないというのは一切書いてございません。調査審議した結果、区民会議自体で何かをやるというところもありますし、それぞれ出身の団体等がある場合があります。そこへ持ち帰って実践につなげていただくというところも、区民会議をやっている中ではそういった形での実施というところが出てくる場合があります。

あくまでもここに書いてあるのは、「調査審議を行う」ですから、これは行わなければいけないことなんですけれども、その次に、そこで決定した事項を区民会議として皆さんと一緒にやりましょうということも決定した場合は、そこで実施することも可能です。ただ、実施をしなければいけないということは書かれていませんので、こういった形で提言を実現するかというところにつきましては、それぞれの提言の内容によって違ってくるかなということがあります。ですので、必ず実施しなければいけないとか、実施してはいけないというものにはなっていません。

今までのきょうの審議を聞いていまして、うちのほうの提案が2つの部会という形になっておりますけれども、もう1つ、マップづくりについて大きなプロジェクトをつくったほうがいいんじゃないかという御提案が出たと思います。それともう1つ、部会長について、それぞれのプロジェクトについて部会長を設けたほうがいいのか、それとも通しで1人にしたほうがいいのかというところ、そこがまだ皆さんの中で一致していないところかと思います。

ですので、まずはそれぞれ部会をつくったときに、同じ人になることはあるかと思うんですけれども、部会長をそれぞれつくったほうがいいのか。それと、3つの部会を立てる

のがいいのか、それともどこかを削ったほうがいいのか。それぞれやりたいものがあるかと思います。そのやりたいところに委員としてどなたが入っていくか、誰もやりたくないところがあればその部会は1個下げたプロジェクトにしてもいいのかなと。もう1つ、マップづくりが出たというところで、3つの課題に取り組もうということが、どれがいいのではないかとということがあったと思いますので、そこら辺でちょっと検討していただければいいのかなと思いましたので、一言。

田邊委員 提案させていただきます。フロンターレサッカードリーム教室については、もう実践の検討部会ですので、それは別途立ち上げていただきたいと思います。それとは別に、今までの課題調査部会というのを立ち上げていただき、その中に2つの部会、中原総合防災訓練とマップの2つをその中でやっていただくということ。今までも、課題調査部会の中で、マップづくりその他全部入ってきておりましたので、それをもうフロンターレのほうはやるということで決定されておりますので、そこでどんどん進めていただくということです。それで、課題調査部会のほうには、当然フロンターレのサッカーの部会に入った人でも、当然入っても構わないと思いますので、意欲的な方は両方入ってもいいんじゃないかなと思いますので、そういう形で整理してやっていただけたらと思いますが、いかがでしょうか。

橋本副委員長 それでは進め方で、区長のほうから、それぞれ3つの部分、それから田邊委員からは、川崎フロンターレサッカードリーム教室はもう決定だから、これは1つにして、課題調査部会で防災訓練と防災マップを一緒に進めるという2つの意見というか、大体そんな方向が出ているのですが、この点についてどうでしょうか。

岩崎委員 僕は、確かに具体的な日程まで出ている1番をするという今の意見には賛成なんですけれども、2番は、どういう形で入れるのかという形がよく見えないので、コンテンツを考えるということが役割なのか、当日も出席するんでしょうけれども、その役割が非常に大きければ何か立ち上げる必要はあるのかもしれません。

3番目に御意見が多い防災マップのことについて言えば、中間報告で既に出ている、12ページに書いてあるマップづくりを、いつごろなのかという時期の問題はあろうかと思いますが、それに向けて区民会議で出た要望をどれだけ入れられるのかという実務的な役割を、要望するという意味で担うという形でそういう部会を立ち上げるのか、今までどおり課題調査部会という形でやるのか、そういうチームをつくってやり続けることに関しては私も異議はありません。どちらかというところ、2番目のところが、具体的に何をするのか、私のほうはよく見えていないというのが正直なところです。

梅原委員 私の考えというか、理解しているのは、3つテーマがあって、川崎フロンターレサッカーと防災訓練、それからマップづくりと3つテーマがあって、今フロンターレが決まったようなことを言っていますけれども、僕は決まっていないと思うんです。きょう決めるんです。だから、その3つを決めて進めるか進めないかという形に今私は理解して

います。でも、この3つに絞ったということは非常にいいことじゃないかと思います。よろしくをお願いします。

槁本副委員長 当初の資料2では、2つの部会という案になっていましたが、それ以外に防災マップについてということが上がってきまして、3つという捉え方もあるかと思うんですが、この点について、そういった名称は別として、検討・実践部会を3つ設けるということについていかがでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

槁本副委員長 それから意見がいろいろ出ておりました部会長については、当初は時期がずれているので、2つを1人の部会長が持つというような話になっていたわけですが、これについて今度3つの場合に、部会長は1人でいいのか、それともそれぞれ別個に設けるのかということです。この点についてはいかがでしょうか。3つの部会ということになりますと、当然時期とかそういう問題もあろうかと思いますが、部会長については、それぞれこの名称でいう部会ごとに設けるということによろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

槁本副委員長 それでは、非常に私の進め方が、不手際があつてなかなか進まなかったわけですが、第6期中原区区民会議後半の部会の進め方につきましては、部会については3つということで、川崎フロンターレサッカードリーム教室、中原区総合防災訓練、中原区総合防災マップという3つの部会を設けるということで決定させていただきます。また、部会長についてはそれぞれ別個に部会長を選任させていただきます。

それでは、委員選出に移らせていただきます。委員の選出に当たりましては、区民会議条例施行規則第4条第2項におきまして、部会に所属する委員は委員長が区民会議に諮って指名すると規定されているということでございます。そういったことで、委員の選任をさせていただいて、部会長は委員の選任が終わってからということによろしいですか。それとも最初に部会長を決めたほうがよろしいですか。

山崎委員 部会長を先に決めたほうがいいと思います。

槁本副委員長 部会長を先に決めたほうがいいという意見がありますが、そのことについていかがでしょうか。そのとおりでよろしいでしょうか。

内田委員 委員が決まっていないのに部会長を決めるんですか。このメンバーの中で、御自分がそれに参加し、意欲の燃えている方、指名も1つかもしれませんが、やはり御自分が興味あるところ行かれたほうが、さらなるステップアップにつながる。そして、その中でさらに意欲のある方が部会長になられたほうが、さらにホップ、ステップ、ジャンプで行くんじゃないかという気がしてなりません、いかがでしょうか。

槁本副委員長 ただいま委員の中から、互選という形になるんですか、そういった方式のほうがいいのではないかという意見が出ました。この点について2つの意見が出ましたが。

萩原委員 いいと思います。

山崎委員 委員長の指名じゃなかったんですか。そうすると、困らないかな。専門的な方を入れていただくという条件ならいいんですけども。

橋本副委員長 規則によると、部会に所属する委員は、委員長が区民会議に諮って指名するですね。

山崎委員 では、いいんですね。ありがとうございます。申しわけありません、私の勘違いでした。

橋本副委員長 委員は委員長がということですね。

それでは、3つの部会につきまして、この点については今まで特に運営部会や課題調査部会に属していない方を最優先というとおかしいですが、その方に3つのうちどの部会に属したらいいか希望等をお聞きしたいと思うんですが、今回部会が3つということで、20名しかおりませんので、運営部会に属した者を除くなどという人員がいなくなってしまうことから、運営部会の委員も含めて、それぞれどこかに属していただいたほうがよろしいんですか。考える時間は必要ですか。よろしければ順番に希望する部会を。

山崎委員 フロンターレさんの1番をお願いします。

柳沢委員 マップづくりで。

森委員 防災のほうをお願いします。

萩原委員 私はマップをお願いします。

中森委員 サッカーのほうをお願いします。

関口委員 フロンターレをお願いします。

田邊委員 フロンターレをお願いします。

鈴木（功）委員 私も実行が一番動けると思うので、1番のフロンターレで。

児玉委員 防災のほうをよろしくをお願いします。

梶川委員 1番をお願いします。

小野山委員 2番をお願いします。

梅原委員 マップづくり、お願いします。

内田委員 防災訓練のほうをお願いします。

岩崎委員 私は防災マップをお願いします。

伊藤委員 私も防災マップをお願いします。

橋本副委員長 ちょっと確認させていただきます。

内田委員 2つ選んでもいいんですか。

井上副委員長 もちろんです。

内田委員 では、もう1回言わせてください。内田ですけども、防災マップをお願いします。

橋本副委員長 訓練と両方ですね。

児玉委員 児玉も、防災マップと総合訓練、2つお願いします。

伊藤委員 伊藤もお願いします。両方。

梅原委員 梅原、防災訓練も入れてください。

小野山委員 小野山も1番と2番で。

井上副委員長 梅原委員、フロンターレのほうも入ってくれないかな。前に言っていた、ひもとか、いいですか。

梅原委員 はい。

井上副委員長 ありがとうございます。

できれば内田委員も。

内田委員 ごめん。こっちをメインでやりたいな。

井上副委員長 じゃ、アイデアはください。お願いします。

中森委員 中森は、マップもお願いします。

槁本副委員長 ちょっと確認させていただきます。フロンターレサッカードリーム教室、山崎委員、中森委員、田邊委員、関口委員、鈴木功士委員、梶川委員、小野山委員、井上副委員長、梅原委員。

訓練の関係、森委員、児玉委員、小野山委員、内田委員、伊藤委員、梅原委員、それで、きょうは成田委員長がいないんですが、成田委員長。

それからマップです。柳沢委員、萩原委員、梅原委員、岩崎委員、伊藤委員、内田委員、児玉委員、中森委員、それに槁本というような感じ決定させていただいて、欠席の方については、後日、事務局から連絡していただいて、加えさせていただくということでしょうか。

それでは、部会についてはこのように決定ということでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

槁本副委員長 ありがとうございました。

では、恐縮でございますが、区民会議が終わった後、若干残っていただいて、それぞれの委員長を決めていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

進行が下手で時間がオーバーしてしまいましたが、本日の予定させていただきました議事は全て終了いたしました。

ほかに皆様から何かございますか。なければ、区民会議参与の方、重富参与と君嶋参与のお2人がお見えになっておりますが、時間がオーバーしておりますので、恐縮でございますが、手短に一言コメントをお願いします。

重富参与 すみません、先ほど時間を奪ってしまいました重富です。会の印象として、区民会議がすごく深まっているなと感じます。時間オーバーしたという状況ですけれども、これは当たり前というか、個性が皆さんどんどん出てきていると思います。私が区民会議で気になっていたのが、市として、今、区民会議を30年度以降やるかどうかちょっと考え

中みたいな状況なんですね。もしかしたら、これが最後になるかもしれないので、ぜひ後悔のないようにと思って、私も後悔のないようにさっき手を挙げさせていただいたんですが、ほかの区民会議の参加者の方でこういうことを言っている方がいて、条例で位置づけられているので意見を言うのにとっても敷居が高く、楽しいことを思いついてもこんな場で言っているのか迷うことがあったという意見がありました。もう1つ、区民会議はこういうものだ、こういう条例に基づいてやっているんだから、こうしなくてはいけないということが議論をしていても感覚的に埋め込まれていると思う。これは本当にもったいないなと思って、これを読んだときにすごく悲しくなりました。

今の中原区の区民会議はここからちょっとずつ脱却できているんじゃないかと思って、すごくうれしいなと思っています。なので、ぜひここから実行委員会形式でということだと思うので、あくまでも主体は区だったり、フロンターレさんだったりするので、当然限界はあると思います。フロンターレさんで言えば、使える面積は当然限られるでしょうし、マップにしても、行政がここだけは押さえないというところ以外で、何ができるのかを当然建設的に議論していかなければいけないと思うので、ただ、その中でできることを探るとするのはすごく大事だと思うので、ぜひここからもうひと踏ん張り頑張っていたきたいと思います。ありがとうございました。

君嶋参与 君嶋です。どうもお疲れさまでした。私、ここに来れたのが本当に久しぶりなんですね。今まで議会開催日とか、いろんなことで来れなくて、しばらくぶりに来まして、今、重富参与も言われたように、この会議はなかなか、私が以前に参加してきたよりは深まっているなと思いました。きょう、随分区民会議のあり方について話が出ましたので、この点は貴重だと思います。

やはり区民の方が直接声を出せるところ、パブリックコメントだけの一方通行ではなく、合議できる場所ですので、これはできるだけ尊重すべきだなと思いますので、そういう意味では、単なるパブコメとの違い、こういったところでしっかりと議論しながらできていくものというのは大事なかなと思いますので、そういった点で、区民会議が尊重されることを願っています。以上です。

橋本副委員長 ありがとうございました。両参与からの意見につきましては、今後の参考にさせていただきたいと思います。

それでは、事務局から報告等がありましたら、お願いします。

事務局 今後の日程でございますが、資料のスケジュール案にお示しのとおり、区民会議の全大会につきましては、10月上旬あたりを予定しております。こちらについては、また委員長と調整しながら日程調整はしていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

5 閉会

槁本副委員長 本日は成田委員長が欠席ということで、急遽私が代理を務めさせていただきましたが、ふなれなため非常に時間等を費やしまして、非常に申しわけなく思っております。一応、本日の会議を終了することができました。井上副委員長に深く感謝申し上げます。

以上をもちまして、第5回の中原区区民会議を閉会いたします。ありがとうございました。

午後4時39分 閉 会